

第2回徳島市まち・ひと・しごと創生推進協議会 会議録

と き 平成27年10月7日(水) 午後2時から午後3時30分まで

ところ 徳島市役所8階 庁議室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 徳島市版総合戦略の全体像及び策定スケジュール

(事務局)

「資料1」 徳島市版総合戦略の全体像及び策定スケジュール」に基づき、説明。

(委員長)

ただ今、事務局から「総合戦略の全体像及び策定スケジュール」について説明がありました。これについて、ご質問やご意見はございませんか。

質問及び意見なし。

4 徳島市人口ビジョン及び総合戦略(素案)について

(事務局)

「資料2」 徳島市人口ビジョン(素案)」及び「資料3」 徳島市未来チャレンジ総合戦略(素案)」に基づき、説明。

(委員長)

ただ今、事務局から「徳島市人口ビジョン及び総合戦略(素案)」について説明がありました。これについて、ご自由にご質問やご意見等をいただければと思います。

(委員)

それぞれの素案については、今後、議会に諮るのですか。

(事務局)

素案については、9月議会において、ご説明いたしましたところです。

その後、本協議会で頂いた意見やパブリックコメント等により修正したものを12月議会に諮る予定です。

(委員)

市議会での説明時に、このような夢物語のようなものに対して、意見は出なかったのですか。

もしも、出生率2.07が達成できたら、日本中の話題になります。

これを具体的にどのようにして達成していくかを、議会で説明していたならば、その際に、議員の方々から厳しい意見は出なかったのですか。

「こうありたいならば、このようにすることによって目標を達成できる。」ということがなく、数字を羅列しているだけであり、具体的に重点施策として、このようなことに力を入れていくというようなものが何もないように思います。

(事務局)

今回の素案は、今後の方向性を示すものとして、9月議会に報告させていただきました。

議員の方々からは、例えば、「外国人観光客を増やす施策に取り組んではどうか。」「子どもを産み育てる環境づくりや結婚意欲を促す施策をもっと増やしてはどうか。」「人口問題は短期的に見るものではなく、市独自の施策を長期的視点で考えるようにしてはどうか。」等のご意見をいただいたところです。

(委員長)

この人口ビジョン素案は、県の人口ビジョンに呼応した面もあります。県の示している目標を考慮して、本市の目標を設定しないと、県との整合性がなくなってくるという面も確かにあります。

(委員)

限られた予算の中で、多数の事業に予算を割り振っていることから、結果的に各事業の予算は少なくなるため、効果がないのです。それよりも、とり急ぎ必要な事業に対して、重点的に予算配分していくような方向を示さないと、良い施策は出てこないと思います。

そういった意見が議会からは出てこなかったのでしょうか。例えば、総花的な話ではなく、もっと厳選して事業を出してくるように等の意見です。

(委員長)

確かに、委員のおっしゃるとおりで、来年度からの予算編成に向けて、どれに重点配分するか、これらの事業が全てできるわけではないため、その中で重点項目は決めていかなければいけないと思っています。

この素案は、それを考えていく上での指標となるような面もあります。

(委員)

資料3「チャレンジ1」の目標「雇用創出 5年間の累計で1,000人以上」は、非

常に重要なポイントになってくると思います。ここで、考えなければならないことを、3つ申し上げます。

まず1つは、過去5年間で、どれくらい廃業と倒産で雇用を失ったか。このことを踏まえた上で、取り組んでいかなければならないと思います。

もう1つは、企業誘致には熱心だが、今市内で活躍している既存の企業に対して優しい政策を打ち出していくことも必要です。入って来る企業があっても、出て行く企業が多ければ、純減になりかねない、既存の企業に優しい政策も必要ということが2点目です。

3点目は、黒字企業は、最低1人の雇用増をするような運動をする、雇用を増やした企業に奨励金や表彰を行えばいいと思います。雇用を増やした企業に、何かプラスになるものを与えなければ、難しいのではないのでしょうか。そのような機運を高める誘導を行政がしてくれれば、ありがたいと思います。

その他では、金融機関の情報力を活かして、例えば、企業誘致について、県外支店の取引先企業が設備投資をする場合に、徳島市への誘致をする、特に四国の他3県であれば、来てくれる確率は高いと思います。

それと、同じ県内でも徳島市から他の自治体に出て行かない、企業を減らさないという視点で、取り組んでもらいたいです。

(委員)

総合戦略を示されましたが、もう少し特徴や具体性が足りないと思います。

例えば、食について言えば、外から来た人は徳島ラーメンは知っているが、どこに行けば食べられるかは分かっていません。そのような場合に、そこに行けば、色々な徳島ラーメンが食べられる、また、麺と言っても、うどんもあれば、そばもある、そのような特徴をつくっていくことも、1つの方法であると思います。

もう1つは、今回の国体で徳島県は30位以内を目指していましたが、46位とまだまだでした。スポーツは、大きなツールであり、小中高だけでなく大学、それから地域がスポーツを支えるようなシステムが必要です。例えば、企業が選手を雇用するような仕組みづくりは、行政もある程度、できるのではないのでしょうか。

また、交通は整備されてきており、徳島市内に来やすくなっています。このことを見越した上で、特徴付けを考えていくことも必要です。

現在、徳島市でどのような議論をされているかは存じていませんが、CCRCについて、温暖という気候面から考えると、積極的に考えてもいいのではないのでしょうか。徳島市内に限らず、北島町や松茂町と連携する等、それくらいの構想を持って、行っていただければと思います。

それと、もう1つ重要なことは、様々な多数の施策を行っていますが、これを総合戦略の中で、誰がどのような形でマネジメントするかが明確ではありません。こういったものは、各課が行うのではなく、相互に行えると相乗効果が生まれますので、仕組みについても新しい形があってもいいかなと考えています。

(委員長)

CCRCにつきましては、住所地特例の拡大が実現しなければ、進めることは難しい面があります。県においても、特区で対応するという話がありますが、なかなか採択されそうにないという課題があります。

(委員)

川内町は、散歩、サイクリングができ、温泉もあり、県民、市民にとって良いところです。川内町の土地活用、或いはそれ以外の地域の活用について、総合戦略の中で、グランドデザインを考えられるといいのではと思います。

(委員)

この素案は、基本的な方向性を示すものであると伺いましたので、こういった内容のものになるのかなと思いました。

人口ビジョン素案において、2060年を対象期間として、24万2千人を目指すとされています。2060年はとても先の話ではありますが、そのうちの5年間として総合戦略中に、目安の数字が示されています。この目安の数字が、人口増につながるのか否か、つまり、総合戦略中の「雇用創出数1,000人以上」や「出生数2,200人以上」等の数字と人口ビジョンとの整合性をどのように考えているのかが分からないので、お聞きしたいと思います。

それと、若者、大学生や小中高生に対して、夢を持ってもらうことが必要であり、そのために教育が重要であるということ、前回会議で何人かの意見として出されたと思いますが、その視点が少し弱いのではないかと思います。働くことの意味や意義を学校教育の中で、又はインターン、職業体験の中で学べればと。徳島市に限りませんが、農業、第一次産業の衰退が危惧されており、そのような課題が視点として重要ではないかと考えます。

それと、子育てにかかる負担軽減についてですが、総合戦略素案P7にあります「家事・育児にかかる負担軽減」で、「家事や育児の支援をするヘルパー派遣の経費負担等の助成」とありますが、このような制度はあるのでしょうか。また、どれだけの利用があるのでしょうか。あまり聞いたことがない制度なので、この制度が一般化されたものかどうかは存じていませんが、総合戦略の中で位置付けるならば、もう少し一般的な事業にした方が、表現としても適当ではないかと思いました。

(事務局)

人口につきましては、国は、現在の人口約1億3000万人について、2060年に1億人程度を確保するとしています。このことを徳島市に置き換えますと、26万人が20万人程度となりますが、さらにそれに2割努力しようとしているところであります。徳島県におきましては、目標人口が60万～65万人超を目指すという範囲の中で、それを徳島市に置き換え、24万人として取り組みたいと考えているところです。

事業効果につきましては、今後、アクションプランを設定して位置付けていきますが、それぞれの事業につきましては、KPIと言われる成果指標を設定します。事業を、あれもこれもとするのではなく、その成果指標の大きいものから優先的に事業を割り振っていき、アクションプランに設定していきたいと考えているところです。

それが、2060年にどのように繋がるかということは、まだこれからであり、確たることは言えませんが、とにかく、まずは成果指標のできるだけ大きいものから優先的に予算付けをしていきたいと考えているところです。

(委員長)

教育に関する視点は、意見として参考にさせていただきます。

ヘルパー派遣に関する制度は、2～3年前から本市では始めていますが、事務局から事業の説明をお願いします。

(事務局)

この制度は、「産前・産後家事育成支援事業」として、「子どもを生み育てやすい環境を整えるため、産前2か月、産後1年の間に、家事や育児の援助をするヘルパーを派遣する経費を負担する」ことを行っています。利用実績は、利用登録者数46人となっています。

(委員)

事業を行っていることは分かりました、説明ありがとうございました。ただ、対象は産後1年となっており、たぶん、育児休暇の期間を想定してのことかと思われませんが、2～3歳の子どもがいる、もう1度就労したい家庭への支援を、もう少し強化された方がいいのではないかと思います。

(委員長)

この事業は、祖父母がいない核家族等で徳島市に来て相談する相手がない等のご家庭の要望を受けて、3年前くらいからつくった事業です。

(委員)

この事業を利用する際の制約や条件は厳しいのですか。

(委員)

この事業は、当初より対象の幅が広がり、去年頃から産後1年までとなりました。

シニアの活用として、徳島市シルバー人材センターに委託しており、徳島市シルバー人材センターの方が家事支援、育児支援を行い、産後に疲労しているお母さん達を助けてくれる支援をするものです。直接、徳島市シルバー人材センターに依頼した場合は、2時間で2,000円余りかかりますが、差額を徳島市が負担することにより500円で利用で

きる、とてもお得な事業です。

知らない方が家に来ることに抵抗をもつ方もいますが、外国人の方や転勤族の方等が、周りに知り合いや家族がいないため利用しています。これらの方は1回利用されるととても良かったと感想を持たれますが、このサービスが知られていないことと、知らない人が家に来ることの抵抗感があるため、利用は伸び悩んでいます。

それから、多数の利用があった場合、この事業のための勉強をされた方が徳島市シルバー人材センター内にそれほど多くいないのが現状ではありますが、とてもきめ細かな対応をしている徳島市の施策の1つであると言えます。担当者の方もポスターを配付し、周知に動かれていますが、良い支援でありながら、みんなに知られていないのが現状です。

(委員)

直ぐに人口を増やすことは、なかなか難しいと思うのですが、子どもを増やすことは、長い目で見て良い施策であると思います。

総合戦略素案の中のP6で本市の強みに「第3子以降の保育料無料化」とありますが、出生率が1.46しかない中、第3子以降を無料化するよりも、第2子以降を補助する、もちろんお金の問題がありますが、そのような考え方はないのでしょうか。

(委員長)

第3子以降の無料化は、徳島市は比較的早い時期から行っていましたが、第2子以降となりますと、財源の問題があります。

(委員)

もちろん対象者数が増えますので、その問題はよく分かりますが、無料化ではなく補助にする、収入の上限を設ける等の方法も考えられるのではないのでしょうか。第3子となると、ほとんど対象がいないのに、事業の意味があるのかという疑問をもちます。

(委員長)

最近では、結構、第3子の方もいらっしゃいます。

(委員)

第3子の補助については、所得制限があるのでしょうか。

(委員長)

徳島市は所得制限を設けていません。

(委員)

それは、良いことだと思いますが、ぜひ第2子の補助も検討していただければと思います。

す。第2子が生まれたら、それが3人目にも繋がるような気がします。

それ以外では、チャレンジ1（総合戦略内）に「若者は徳島市で夢を実現する」とありますが、実現するにしても、まずは食べていかなければならないので、その糧となる企業を創造することが必要だと思います。

阿波おどりを否定するわけではありませんが、阿波おどりで観光客が増えて、その結果、定住する人が増えることもあるかもしれませんが、それだけでは、数は少ないと思います。

もちろん、一時的に観光客が増えることは、収入が増えることになり、それも良いことですが、違うところで何かできないかなど。具体的な答えは出てこないのですが、非常に難しいけれども、例えば、先程、委員がおっしゃったように1社1人雇用増で、それに対する補助等があると、また変わってくるかもしれません。

現状のままで、廃業する会社、倒産する会社がある中で増やしていくことは非常に厳しい気がします。

徳島は、自然、阿波おどり等の魅力がある中で、どのようにして定住してもらうかということがポイントです。委員がおっしゃったように、全部ではなく、優先順位をつけて、どこかで取捨選択していかなければ、難しい気がします。

（委員）

日本版CCRCの話も出ていますが、やはり住所地特例の緩和は難しそうですね。

（委員長）

現状では、拡大は難しそうですね。拡大すると、介護保険制度自体の安定が揺らぐ恐れがあり、特区での措置や全国的な対応は困難であるということが、有識者会議の場に出ています。

制度改正や特区ではなく、調整交付金の配分で行っていく、有識者会議では、そういう方向での意見も出ているようです。

（委員）

人口全体の議論が出ていますが、非常に重要なことは、人口の年齢構成のバランスをきちんととっていくということです。これが、本来の目的にならなければ、人口の取り合いになってしまい、どの街も人口の取り合いの議論をしている状況になり、辻褄が合わなくなってしまう。

やはり、維持していく、この街がずっと持続していくためには、ある程度、若者がいる社会について、きちんと議論した方がいいです。

今回、目標を立てていますが、その年齢構成について、どういうところを目標にしているのかを、整理しておいた方がいいと思います

政策は、若者に向けていますが、子育て世代を増やそうとしているのか、小学生なのか、もう少し上の世代なのか、CCRCの話が出てくるともっと上の世代になりますが、本当

にその世代を増やしたいのか等の議論も含めて、年齢構成については、きちんと考えておいた方がいいということが1つです。

それから、これは苦言になりますが、この新常識という言葉について、最初はなるほどなと見ていましたが、常識といった時に、いったい誰が持つ常識なのかをもう少し考えて、この言葉を見直された方がいいように感じました。

最初の言葉「若者は徳島市で夢を実現する」、これは誰が持つ常識なのか、若者が持つ常識ならば、若者はこのような言い方はしません。私ならば、「徳島は若者の夢を叶える街」にします。これならば、何となくイメージがわきますが、「若者は」と言われると、自分達のこととは思わず、たぶん、上から目線で言われているように感じるでしょう。

「子育てするなら3人以上」、これは「3人以上産めば楽しいよ」という常識だと、若者が育てるイメージになるかもしれませんが、「子育てするなら」と言われると、疑問を持つような反応になります。

チャレンジ3にしても「1番」とありますが、なんで「1番」なのかがよく分かりません。誰に対して、1番なのかもよく分からないし、日本一なのか県内一なのかも分かりません。これも「徳島は楽しく暮らせる街」という常識で十分だと思うのですが。

このように、これらの表現は、少しずつニュアンスが上から目線で、言葉がひっかかっています。おじさんが持っている常識を書いているようなところがあり、もっと若者が持つ常識に変え、もう少し見直していただければと思います。

なぜ、このことに、こだわっているかと言いますと、これが、まさにしっくりきますと、後ろの話に繋がっていきますけれども、これが夢物語に見えてしまうと、「何をしているのか」という話になります。

これらの言葉をみんなが持ちそうな言葉に変えていただくだけで、行うことが見えてきて、後ろに繋がっていきますので、これらの言葉は見直していただければと思います。

それから、大学教育の話になりますが、今度、「COC+」として、徳島大学、徳島文理大学、四国大学、県内の高等教育機関等が連携して、大学生の県内定着率を、それぞれの大学において5年間で10%上げるという、とても大きな目標を掲げています。これは、入口論がまずあり、県内の高校生が入学してくれないという問題があります。特に、徳島大学では、県内高校生が減少しています。これを先ず解決していかなければならないということと、卒業したときの問題として、帰還率が重要であり、一回、県外へ出ても2~3年で帰ってくるのが重要であると思います。そのような人達をサポートする取組を行っていかうとしています。若い成功した人達、県内で成功した人達の話や、「暮らすなら地方都市がいい」というような話を、できるだけ学生に植えつけていかうとしています。

また、子育て世代について、シングルマザーの話があります。彼女たちが、Uターン、Iターンしてきており、そのサポートについての議論が、様々な所で始まっています。このこともキーワードとして留め、どこかで考えていただければと思います。

(委員)

素案については、大きな枠組での方向性としては、いいのではないかという気がします。

ただし、具体的なものがない、インパクトと新味に欠けるかなという印象があり、中身についても、結局、これまで取り組んでいることとおそらく同じなのではないでしょうか。

これから、現在の取組について、どこをどういう風に肉付けしていくのか、その点がポイントになるのかなと思います。

それから、チャレンジ3(総合戦略内)の取組の方向性は、私もこの通りで、地方都市のイメージがはっきりしていないと思います。

徳島市で人口を増やすことを考えた場合、いったいどうしていくか、徳島市は阿波おどりもあるし、新町川等、色々な川が流れている水都でもあります。例えば、県内では、美波町はサテライトオフィスで、数は少ないものの社会増になったという動きもあります。

また、若者の価値観が変わってきており、都会の一流企業に勤め、高額給料をもらっても、自分の時間がもてない、通勤時間が長い、自炊ができないので、高い食事を食べ、クリーニング代がかかる等、生活に疑問を持っている人がいます。都会の方が高い給料であったとしても、例えば、地方の方が、より自分の夢を実現できるという人が増えてきているので、そのような流れも踏まえて、徳島市が面白い、こういう徳島市をつくるんだというところでの、地方都市としての徳島市の位置付けが大事だと思いました。

では、具体的に位置付けをするときに、どういうことができるか、現在の取組もありますが、これをもう一段、知恵をしぼっていただければいいのではないかと思います。

(委員)

徳島を魅力ある街にするには、一番代表的なものとして阿波おどりを活用してはどうかと、今の徳島市を考えて、徳島市を魅力あるまち、その魅力を発信することに、阿波おどりを中心にするということを、申し上げたいです。

徳島市民が阿波おどりを応援する、例えば、高校野球で言いますと、池田高校が甲子園に出場すると、徳島県民は、県民をあげて池田高校を応援します。

そういった市民性と言いますか、そのような施策を大々的に打ち出してほしいなと思います。

今回、阿波おどりがパリに行ったことで、これから世界へ発信、パリと徳島市との観光交流等を、図っていけるだろうと思います。

ただし、阿波おどりに携わっていて、非常に辛い面もあります。阿波おどり期間中は、駐車場料金やホテル料金が通常価格に比べて相当高額になります。

現在も阿波おどりの出前授業を行っていますが、このように徳島市民が徳島を愛する気持ちになっていただける施策に、阿波おどりだけでなく全体の施策として、徳島市に取り組んでいただきたいと思います。

(委員)

チャレンジ1(総合戦略内)の雇用創出について、起業創業が最初に来て、2番目に企業誘致がきており、実現するといいいのですが、非常に難しい面もあります。

この部分で、最も骨太な方法は、地域産業の競争力の強化であろうと考えています。

今、徳島市で経営している会社を、どのように、大きくして活躍する企業を増やしていくかという、地道な施策が生きてくると思います。

地元の金融機関は、従来から取り組んでいるのですが、新たな視点の中で、もう一度取組を進めている段階であります。前回会議でも申し上げましたとおり、その時に一番問題になってくるのは、情報力となってきます。

金融機関の持っている情報力、県内だけではなく国内全域の情報を持っていますので、それを徳島市としてどのように活用していただくのか、或いは徳島市の持っている情報をどのように金融機関に伝えていただくのか、このことを考えていただければ、今よりもっと地域の各企業の成長する度合いが大きくなると考えています。

(委員)

他の委員の方々も言われていましたが、素案について、もっと具体的で斬新なものとしていただき、子育てにしましても、複数並べるよりも、人口年齢のどの年代の人を増やしていくといった部分で、そのターゲットに合わせて、1つを打ち出してみる等、そして、チャレンジして成功しなければ、また違う施策を打ち出していくといいように感じました。

また、何か1つ大きな目玉があればと思います。例えば、子育てに関してはこの施策、企業誘致に関してはこの施策、就職に関してはこの施策等とすることにより、明確にできればいいのではないかと思います。

(委員長)

特徴についてのご意見ですが、先程、事務局から説明させていただきましたとおり、今後、アクションプランをつくります。その中で、重点目標や来年度から取り組んでいく内容を示していくものとしていますが、このことについて、事務局から再度、説明をお願いします。

(事務局)

総合戦略は、目標や施策の展開方針をまとめたものでございますが、資料1でご説明いたしましたとおり、アクションプランで事業を位置付けて、実施していくこととなります。

その中では、現在の取組に加えて、できるだけ目玉となる事業をつくりたいので、効果の高いと思われる新しい事業に優先的に予算配分して、実施していきたいと考えています。

(委員)

先程、委員がおっしゃったことと私も同じ考えで、未来チャレンジ(総合戦略内)で、「若

者は」と言った時点で、古いなと思いました。

これからアクションプランをつくるという話もありましたが、「徳島市が1番面白い」について、いったい何が1番面白いのですかと言いたくなります。夢を持ってチャレンジするというメッセージではありますが、全てにおいて、「若者は」というのは古く、徳島市は1番面白い、これっていったい何が1番面白いと言っているのかなと。「子育てするなら3人以上」とありますが、県が人数を立ててることもあります、やはり家庭的なことや晩婚化や不妊治療等で欲しくてもできない方がいらっしゃることを考えると、言葉はよほど考えていかなければと思います。目標数値を3人と出していくことも必要ではありますが、どうしていけばいいのかということもあります、私自身にも答えはありませんが。

総合戦略のP7で、子育てにかかる負担軽減とありますけれども、切れ目のないサポートという面で、婚活、結婚する機会をつくらなければいけません、県の方も婚活に関しては、すごく悩んでいらっしゃると思います。

この間、20代の方に聞きましたが、「既に結婚している方や年配の方が計画を立てると、全然面白くない。だから、例えば50万円用意して、大学生が応募し、自分たちで婚活する等、若者に任せるような大胆なことをしなければ、婚活に関係ない人達が、全然違うところで議論をしても。」という意見が出ていました。

総合戦略のP7、2番目の「地域ぐるみの子育てサポート」において、「サポート体制の充実」として、「児童館等における学生サポーターや保育士・保健士等有資格者による」と示されていますが、なぜ児童館にこのような方々が必要なのかという根拠も今後、説明していただければいいかなと思います。

それから、その次の「地域における子育ての拠点づくり」については、今保育所の中で家庭児童相談室という在宅で子育てしている方の子育て支援センターが次から次へとできてきていると聞いており、その面ではすごく充実してきていると思います。

徳島市のお母さん達から、徳島市の乳幼児の子育て支援は、とても進んでいて助かっているという声がありますけれども、先程、話に出ました「産前・産後家事育成支援事業」も含めて、皆さんがまだまだ知らないということが多いです。

また、お願いしたいことは、縦割りの部分についての検討です。同じ子育て支援を目的に活動している団体であるにも関わらず、所管する課が異なることで、予算面等での扱いが異なることに疑問があります。商店街の活性化や子育て支援について、総合戦略において示されているならば、所管する課や直営等の形態に関わらず、そのために活動しているNPO法人を支援していくことを本気で考えていただきたいです。

「阿波おどり」「商店街」「子育て」、これらについては、何らかの形で大きなものを打ち出せば、徳島市ならではのものができると思うので、ぜひ考えていただければと思います。

(委員)

阿波おどりは、小学校、中学校では義務になっていないのですか。義務という言い過ぎかもしれませんが、徳島の子どもは必ず踊ることができて、地元のことをよく知るとい

うことは重要だと思います。

(委員長)

義務ではないにしても、小学校では運動会等、何らかの形で阿波おどりをしていると思いますが、本格的に踊るようなことは、今はしていません。

(委員)

阿波おどりは、体育、音楽、コミュニケーションの面でいいので、徳島で育った子は必ず、ある程度は踊ることができる、そういったものになるといいと思います。

(委員長)

トクシヤが、小さい子ども達に対して、阿波おどりの出前教室をする等の取組を行っています。

(委員)

また、あと2点申し上げさせていただきます。

徳島では、若い人がなかなか街の中にいない状況にあり、若い人がいるのは、外から人が来るため、「マチアソビ」がある時という状況です。それに対して、外から来てくれる若い人に、もう少しサービス等を考えた方がいいと思います。行政がすることではないのかもしれませんが、徳島は色々な面で若い人に手厚い、そういった印象を持ってもらう何か仕掛けをつくらなければいけないと考えます。

それともう1点は、創業支援についてです。先程、委員がおっしゃいましたように、「COC+」での地元の定着率を上げるということで、この中で創業支援を提案しているところ です。

このことで、欠けているのは、インキュベーションであり、それがあっていいです。皆さんが集まって小さな会社をつくった際の活動場所等、単に人だけではなく、ハード面でも、支援が必要かなと。ポッポ街は、駅前にある印象的な場所であるため、そのような場所での盛り上げ策を考えられるといいです。外から来た人の印象は、やはり若い人がいて活気づいているなというところにあると思います。

(委員)

今、中心商店街の話がありましたが、今までも、徳島市は中心商店街のにぎわいづくりに取り組んでおり、平成23年には徳島文理大学の先生にスマートシティ構想を出していただく等、そのようなことを徳島市から提供していただけてきましたが、街の中にいる人達がそれを理解できずにいたという面があります。

それから、ワークショップを行っても、それを行うこと自体が目的になってしまい、そこから先になかなか進まなかったのですが、今年から、民間のコンサルタント企業と全国

商店街支援センターに入っていました。10月14日に、四国大学の学生さんに来ていただくことになっていますが、外部の若い方のどういう街になってほしいという意見を聞いて、生まれ変わらなければ、内部だけで議論しても限界がきています。

再開発だけではなく、商店街を劇的に変えたいという思いがとてもあります。だから、外部の方々に入ってきて、問題点が見える化して、来年から、見える化した問題点を、1つずつ解決していったら、5年後には商店街が良くなったと言われるような街づくりを進めていきたいと考えています。

(委員)

行政と企業の連携について、これまでは行政が遠慮してきた気がします。

例えば、期待していた国体も今年は46位という残念な結果が出ていますが、前から県に申し上げていることで、体力のある企業に選手を預けてはどうかと。そして、補助金を出すことによって、選手を育てなければ、なかなか選手層が充実していかないということを提案しています。

今後も企業と行政が連携をとりながら、強化していくことが必要です。

もう1点は、四国地方産業競争力会議の中に、四国少子化対策委員会というものがあります。それは、4県の男女1人ずつが委員となり、8人の委員で行っていますが、今年の委員会で、「一度、若い方の少子化対策についての意見を聞いてみてはどうか」と申し上げましたところ、香川県知事が同意されたところです。50万円という金額の是非は別にして、徳島大学、徳島文理大学、四国大学等の学生からピックアップして、若者が少子化を考える委員会を立ち上げると、必ず違った意見が出てくると思いますので、検討されてはどうかと考えています。

もう1点は、モデル企業についてです。例えば産後の方が職場に復帰するための色々な手当をしている企業があります。それらの取組を、表に出した方が良く、出すことによって、それを知った他の企業が、同様に頑張ってみようという気持ちになります。一生懸命、取り組んでいる企業を評価し、表彰や支援をした方が、もっと効果が出てくるのではないかと思います。

(委員)

先程、委員がおっしゃいましたが、阿波おどりを除いて、1番面白い、関心があるのは、圧倒的にマチアソビです。徳島で1番面白いものとなると、阿波おどりとマチアソビは欠かせないと思います。

我々から見ると、仮装しているだけに見えても、若者の視点は違います。また、参加している若者のマナーの良さも好評です。

(委員長)

少子化対策につきましては、市においても、10年目前後の職員を集めて、検討しまし

たが、もっと若い方達により、話し合うのも方法かなと思います。

(委員)

学生を集めて行っても、案が出るとは思いません。

このような場合、学生たちに、何かをまとめるよう指示して、案を書かせても、良い案は出てきませんが、自由に喋っている中に、面白いものが出ています。それをどう引き出すかということが大事で、そこにファシリテーターのような方がきちんといて、今喋っている中のそれが面白いと引き出して上げる、そんなノウハウを持っている人と一緒に行くと、非常に面白いものがでできます。

そのようなノウハウは、最近注目されており、徳島大学のフューチャーセンターでも行おうとしています。やはり考えなさい、書きなさいとしても、良いものは出てきません。

自由に喋っている中の面白いアイデアをどう引き出していくか、それが重要です。

雑談しているような雰囲気の中で、実はすごいアイデアが出るということは、よくある話で、それをどう記録してあげるかという作業が重要であり、そのノウハウは、色々なところで盛んに開発されているので、ぜひ考えられてはどうかと思います。

(委員長)

もっと以前にお伺いできると良かった話ですが、まだ案は修正でき、これからでも遅くはありません。

今日は、様々な貴重なご意見ありがとうございました。

以上で、本日の議題は全て終了いたしました。

5 閉会

以 上